

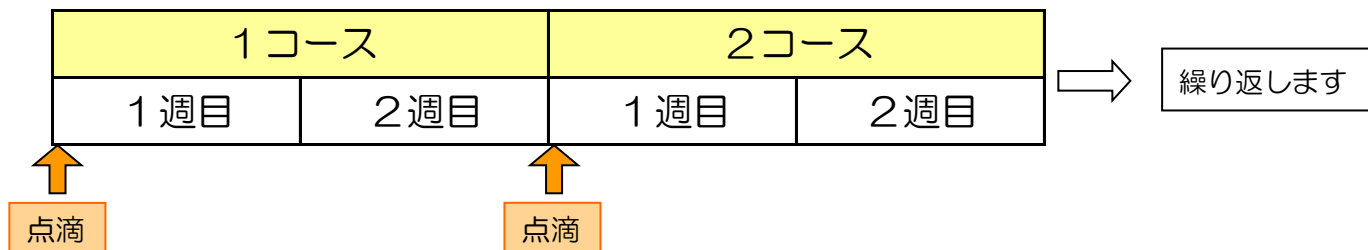
ベクティビックス療法について

1. 治療のながれ

治療スケジュール

通常「2週間」を一区切り（1コース）として治療します。

副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。



点滴スケジュール

点滴時間「約 105 分」 患者様の状態に応じて長くなることがあります。

点滴順序 ↓	薬品名		点滴時間	薬効
		生食 50ml +デキサート +ポララミン	30 分	ベクティビックス投与に伴うインフュージョン リアクションを予防します。 デキサート：副腎皮質ホルモン（ステロイド） ポララミン：抗アレルギー剤
		生食 50ml	15 分	ベクティビックス投与のため点滴ルートを洗い 流します。
		生食 100ml+ ベクティビックス	60 分	細胞増殖する因子を抑えることで抗腫瘍効果を 示します。

血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。
この他にも輸液等を使用することがあります。

2. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「**自分でわかる症状**」と「**血液検査などでわかる症状**」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
皮膚障害 にきびのような発疹 皮膚の乾燥やひび割れ 爪の周りの炎症	保湿をするように心がけてください。 日光をなるべく避けるようにしてください。 手足への刺激（温めすぎ、締め付けのきつい衣服、長時間同じ体勢 でいるなど）は避けてください。 症状に応じて飲み薬や塗り薬などを使用します。



副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
アレルギー反応 (インフュージョンリアクション) 	薬剤投与中、投与後に起こることがあります。 発疹、悪寒、発熱、呼吸苦、めまいなどの症状が出現することがあります。 症状が出現時は、ステロイド剤と抗アレルギー剤で対応します。
下痢 投与直後から 7 日目頃 	普段の便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛が続く場合や、下痢の回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 水分の制限がない場合はこまめに摂取するよう心がけてください。
吐き気・嘔吐・食欲不振	電解質のバランスが崩れた場合に出現することがあります。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
眼障害 結膜炎、かゆみ、目やに等	症状に応じて抗菌剤等の点眼液を使用します。 洗眼することで症状が軽減することがあります。
循環器障害	頻度は少ないですが、胸が痛い、圧迫感がある、苦しいなどの症状が現われることがあります。
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。

▼「検査でわかる症状」



定期的に行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
低マグネシウム血症	血中のマグネシウムの値が減少します。 減少する事で、嘔気・嘔吐、食欲不振、脱力感、眠気、筋肉の痙攣・ふるえなど症状が出現する事があります。
白血球 赤血球 血小板 腎機能 肝機能 などの項目も問題ないか確認していきます。	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。

